



松南地区公民館 親子の食育講座

「地域の子ども達に、畑で野菜作りの体験をする機会を」という、ある町内公民館長さんの想いから今年度の松南地区公民館の講座として「親子の食育講座」はスタートしました。

なんなんひろばで食育の料理教室を指導して頂いている講師の方のご紹介で、お隣の鎌田地区の畑をお借りして松本一本ねぎとさつまいもを育てています。まずは5月の連休中にねぎの苗植えからスタートし、6月にはさつまいもの苗植え、7月の終わりにねぎの植え替えをそれぞれ体験しました。この後は10月にねぎの土寄せとさつまいも掘り、11月にはいよいよねぎを収穫し、ねぎを使った料理を作って締めくくります。子ども達は慣れないながら



も一生懸命にねぎやさつまいもの苗を植え、一緒に参加しているお父さんお母さん達と楽しく畑での野菜作りを体験していました。例年行っていた食育の講座では、料理教室として親子で料理を作ったり、奈川にバスハイクで出かけてのこ採りをしたりと、その日だけで終わってしまうものがほとんどでした。今回のように一年を通して野菜を育てる過程を全て自分が体験することで、最後に収穫した

野菜を料理する時にはより一層おいしく、また食べ物のありがたみを感じることでしょう。こうした経験から、こどもたちが普段の食事のなかでも食べ残しをしないように心掛けたり、好き嫌いをせずなんでも食べられるようになってくれたら嬉しい限りです。

今回の食育講座は初めての試みということで、講師の方やお借りする畑は地区外となりましたが、松南地区の中の子ども達の野菜作り体験にご協力いただける方がいらっしやいましたら、子ども達にとって地域の方と接する大変良い機会となりますので、ぜひ松南地区公民館までお声をおかけください。

(鈴木賢二)

青山様・ぼんぼん

芳野町

去る8月4日(木)・5日(金)と恒例の青山様・ぼんぼんが町内を賑わせてくれました。未就学児と児童・親とで百名を越す隊列は50m近くなり、少人数のPTA支部役員・町会役員での交通対策はやつとの事でした。

上條理加支部長によると、天気急変が心配されました。



たが無事終えることが出来ました。『お旅所』としてキュウリのご褒美をいただいたりして子供達はお喜びでした。町内の皆様・町会役員の方々ご協力ありがとうございました。」と語って頂きました。

お賽銭も近頃では小銭でなく「のし袋」に入れた形のお宅が多く、昔と様変わりしている。

しかし、あれだけの人数がいても元気さは今一つ。声が小さく、おとなしさが気になりました。事前の「青山様・ぼんぼん」の勉強(かけ声・唄のおけいこ)行事の意味を含め伝統行事を、地区や町会で伝えていく必要性も感じました。

(百瀬壽)

青山様・ぼんぼん 南松本一町会

当町会は8月3日と4日の両日、あらかじめ回覧版で告知した巡回路を、夜7時に公民館を出発、町内を回りました。

児童13名、保護者10名、安協、総勢24名と少ないので、青山様は男女交代で担ぎ、元気な声が町内に響きました。出発する前に「これから青山様、ぼんぼんが回ります。伝えて行きたい松本の宝です。どうかお近くを通りましたら、暖かいご声援を」と町内放送をしました。

これからも伝承して欲しいなあ、願っています。

(中田清和)



ひと 宇梶博人さん



今回、信州の名工『タイル張り工』としての宇梶さんにお話を聞きに伺いました。宇梶さんは「もう5年も前のことだし、今は歳でやっていないから恥ずかしい」と言っていました。

現在は、宮田西町会「高齢者クラブ『西友会』」の副会長として活躍されています。
会の年中行事で、蕎麦打ち体験・試食会がありますが、その講師をお願いしています。蕎麦を盛る器や、つゆを入れるちよこを青竹で作ってくださったりと何事にも器用な方で、町会にとっては頼りになる人です。

昭和45年にタイル工指導員資格を取得され、後輩の指導や、技術の習得に励まれ、昭和49年に技能検定1級に合格されて、忙しい日々だったと当時を懐かしんでいました。昭和53年に、松本市より技能功労者表彰も受けられています。平成23年に、信州の名工『タイル張り工』として表彰を受けられました。「卓越した技能を持ちその分野で県下第一人者と目されている方を、県知事が表彰する」ものです。技能職種は、40種もあるそうです。時代と共に新建材におされ、特にタイル張りの仕事は少なくなってきたというので、確かに昭和50年頃までに新築した家庭には、台所・トイレ・風呂場はタイルでした。台所にガスが普及して、流しがステンレスになり、トイレは水洗の洋式になり、風呂場はユニット化して、すっかり変わってしまいました。今は、職業能力開発協会の会員として、頼まれればお手伝いをしながら、仲間とマレットゴルフを楽しんでいるとのことをお話を聞き、これから町会としてもお世話になりますので、お元気でいてほしいです。

(高橋愛子)

憩いの場づくり に 雨水貯水タンク設置

南松本二丁目町会の基盤となっている集会所とグラウンドの周囲には白樫・彼岸桜・サルスベリ・ツツジ等の花木が植えられていて、花が咲くと晴れやかで多くの人の目を惹きつけてくれています。それでもまだまだ木の間に花を植えられる余裕がありません。そこで、今年こんな試みがスタートしました。

育てたい花や自宅の庭で増えた花などを誰でも気軽に植えて楽しみ、また手入れをする中で、親睦の輪(和)も育ち、地域の憩いの場になれば、とそんな願いからです。

しかし、水やりが大きな課題でした。集会所のキッチンからや自宅から運ぶのでは長続きしません。その懸念を見事に解消してくれたのが犬塚町会長が設置してくれた「雨水貯水タンク」です。

集会所の屋根に降った雨水が樋から一番目のドラム缶に溜まります。そこで満タンになった雨水は二番目のドラム缶に流れ込みます。更に満杯になると上部のパイプから排水溝に流れ出る仕組みです。二つのタンクが満タンになる



(志賀幸子)

と一ヶ月近く降水がなくても水やりの心配がなさそうです。天からの恵みを頂いて経済的にも植物にもエコであり、私達も花作りに精が出ます。
この優れたものの雨水貯水タンクに興味のある方、参考にしたいとお考えの方は、是非南松本二丁目集会所へ見にお出でいただきたいと思えます。
場所は、国体道路の「やまびこ地下道西」の信号を南へ百メートルほど「しのぎき内科呼吸器科クリニック」の南隣です。

コラム松南

昭和の声

夏は、敗戦を思い起こす夏でもある。昭和の顔だった方々の訃報も相次ぎ、寂しい。

荒涼たる焦土と化した日本を眼前に、戦争の責任が日本人や社会の無責任体質にあったと見抜いたのは、文部官僚の寺中作雄である。彼は自由を履き違え、利己主義に堕している戦後国民に、民主主義とは「自発的にして自制的、自説を持ちつつ他説に傾聴し、自由を求めつつ責任を重んじる」自立した日本人になることを力説した。その平和で文化的人材を育成する場が公民館であると唱え、実践した。
以来七十年、私達は寺中に応えてきたのか。経済的豊かさを追い続け、疲弊し、戦争も民主主義も忘れ、気づけば不安社会のど真ん中に…。

天皇の「お気持ち」表明があった。象徴天皇として重責をひとり全うされている心痛が滲む。戦争や災害に真摯な姿は、「国民とともに」という天皇の信念であり、昭和をも一身に背負う姿に見えた。

もう一度、公民館の原点を見据え、昭和の声に耳を傾けるべき時がきた。

(白澤幸男)